

本年夏までに方向性を取りまとめるべき事項（案）

1. 手法、工程群等の定義、分類（整理、確認）（資料6）

- ・「手法」、「工程群」、「再生利用形態」の定義
- ・工程群の分類
- ・再生利用形態の分類

2. 手法、工程群等の検証の視点

(1) 過去のLCA計算の前提、技術等の再検討（資料7）

- ・システム境界（評価範囲）
- ・他工程利用プラ等の評価の扱い
- ・材料リサイクルにおける産廃プラ混合等の技術状況
- ・材料リサイクルにおける製品が単純焼却を前提としていること

ほか

(2) 各工程群の技術的要素

- ・工程群へのインプット（受入可能／不都合な素材、態様等）
- ・工程群からのアウトプット（再商品化製品、利用製品の価値、代替可能領域等）
- ・工程群での環境負荷等（使用エネルギー、排水等）
- ・その他工程利用プラ、副産物、残渣等の扱い

(3) 科学的観点

①被代替系の内容、規模等

- ・リサイクルを行うことにより代替される生産プロセスにおける環境負荷等の絶対規模、改善可能性等
- ・再商品化製品等により代替される資源の区分
 - －化石（石炭、石油、その他）、バイオマス、土石、金属
 - 枯渇性の観点からは、石油代替の場合を評価
 - －「天然資源」「循環資源（産廃リサイクル等）」
 - 天然資源の場合を評価

②循環性の内容

- ・「全ての再生利用形態」か「一部の再生利用形態」か
→同じ循環であれば、「全ての再生利用形態」を評価
- ・「炭素水素とも循環」「水素のみ循環」「炭素水素とも非循環」の区分
→「炭素水素とも循環」を評価
- ・炭素分の固定機能
→炭素が長期にわたり固定されるものを評価
- ・小さいループか大きいループか（形態変化が固体のままか、熔融か、その際のエネルギーなど）

③化学的機能等

- ・「リサイクル（再生利用）」、「エネルギー・リカバリー（熱回収）」の線引き
→「リサイクル」を評価
- ・「酸化鉄の還元（非燃焼機能）」、「空气中酸素の還元燃焼」など
→「酸化鉄の還元」等の非燃焼機能を評価

④その他

（４）コスト、経済性等の構造

- ・消費者の分別コスト
- ・市町村の収集選別コスト
- ・再商品化コスト
- ・再商品化製品の価値（売価、被代替物との競合性等）

（５）その他

- ・評価事項の時間的变化、手法等の発展可能性と多様性
- ・事業の適正性、透明性
- ・消費者（排出者）にとってのわかりやすさ 等

3. 手法、工程群等の評価、取扱いの方向性

（１）材料リサイクル手法の評価、課題

- ・一定の条件のもとでは、他の手法に比べて、環境負荷、資源節減性等の面で優れているといえるか。
- ・「一定の条件」に関し、容器包装プラスチックでの実現可能性、コストなど

(2) 入札における優先的取扱いの在り方

- ・ 材料リサイクルの入札での優先的取扱いについて
- ・ 総合的な評価の方向性

(3) 緊急避難的・補完的な利用の取扱い

- ・ 燃料化（RPF と油化（全燃料化）、ガス化（全燃料化））の扱い
- ・ 材料リサイクル等におけるその他工程利用プラの扱い
- ・ 高炉還元剤化の扱い

4. 今後のプラスチック・リサイクルの在り方

(1) リサイクル技術のシステム化、組合せ

(2) 製造、回収等を含めた総合的なリサイクルシステム

5. 平成23年度入札に反映させるべき措置（春以降）